

科目名	カウンセリング特論	副題	
担当者	伊東 正裕		
開講期	前期(隔年)	単位数	2単位 配当年次 1年次・2年次
授業の概要	心理支援の中心的技法でもある心理カウンセリングの理論と技法について理解を深める。代表的なカウンセリングの理論と技法を振り返った後、心理力動論に基づくカウンセリングの過程を詳しく検討していく。カウンセリング場面における対人力動を理解出来ることは、多様な人々が共生するためのコミュニケーションにおける感情交流で生じる軋轢の理解と支援にも役立つはずである。対人関係における力動性を支援に活かせる力をつけることが目標である。		
授業のねらい ・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングに関連する主要な理論、技法について理解し説明が出来る</li> <li>・対人関係における力動のありようを、精神分析等の理論を通して理解し説明出来る</li> <li>・カウンセリング事例から、対人関係における力動性をどのように心理支援に活かすことが出来るか考察し説明することが出来る</li> </ul>		
授業の方法・授業計画			
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方		
2	カウンセリングという心理支援の機能と役割		
3	カウンセリングの代表的な理論		
4	力動的立場における人間理解：フロイト、ユング、アドラー		
5	力動的立場における人間理解：フロイト以降 イギリス対象関係論		
6	力動的立場における人間理解：フロイト以降 アメリカ自我心理学		
7	カウンセリング関係の力動的理解：洞察と抵抗、転移と逆転移		
8	事例を用いた対人力動性の理解：子どもの事例		
9	事例を用いた対人力動性の理解：青年期の事例		
10	事例を用いた対人力動性の理解：成人の事例		
11	事例を用いた対人力動性の理解：保健・医療分野の事例		
12	事例を用いた対人力動性の理解：福祉分野の事例		
13	事例を用いた対人力動性の理解：産業・労働分野の事例		
14	事例を用いた対人力動性の理解：司法・犯罪分野の事例		
15	全体のまとめ		
期末	レポート		
授業に関する 連絡	「でんでんぱん」の通知機能を用いておこなう。		
評価方法 及び評価基準	期末レポート(50%)、授業中での課題等の取組(50%)で総合的に判断する。		
事前・事後 学習の内容	授業中に具体的な説明をおこなう。事前・事後合わせて2時間の学習を求める。		
履修上の注意			
テキスト	特に使用しない。授業中に適宜資料を配布する。		
参考文献	授業中に適宜紹介する。		